

The Cambodian Rural Development Team (CRDT) 訪問調査記録

[訪問日時]

2019年11月5日(火) 10:00 – 12:00

[場所]

CRDT プノンペン事務所

#132c, Street. 135, Phsa Damthay, Chamkarmon, Phnom Penh, Cambodia

[先方]

Or Channy (Executive Director)

[当方]

ジェンキンソン陽、田中直、堀尾孝子

[内容]

○設立経緯

農村出身の5人の大学生が、環境破壊と貧困のない社会の形成をめざして2001年に設立。2005年に政府の登録団体となった。

○活動と組織

貧困の問題と環境の問題は密接に結びついているという観点から、住民の生活向上と環境保全が両立する開発をめざして活動している。メコン川のイルカの保護、農業の生産性向上、野菜栽培の奨励などによる収入源の多様化と栄養バランスの改善、水供給(水源からの採取から分配までのシステム構築)、衛生(トイレの設置促進)、エコツーリズムなどの事業を実施。水供給では、太陽電池でポンプを動かして川の水を採取し、フィルターでろ過して供給しているが、電力が足りない、ろ過に費用がかかるなどの問題に直面しているとのこと。現在60名のフルタイムスタッフが活動しており、そのうち、30-40名は収入向上や農業の事業に、残りはエコツーリズムに携わっている。財政規模は、2018年は、収入向上・農業分野で800,000ドル、エコツーリズムで300,000ドルであったが、2019年度は収入向上・農業分野は500,000ドル程度となる見込み。

(ディスカッション)

水供給については、用途によって要求される水質は異なるので、飲用にするものだけ。砂ろ過、SODIS(太陽熱滅菌)、セラミックフィルター等を活用して処理し、灌漑用にはもっと簡便な処理ではいいのではないかと提案。

排水処理についても議論したが、CRDTは、農村地域を対象としており、排水処理よりも水供給のほうが優先度が高いという。雨水利用についても提案したが、関心はあるものの、話が進展しなかった。

(感想)

- 志のある大学生たちが、自分たちの理想とするところを実現していったところがすばらしいと感じられた。ただ、技術についてはそれほど詳しくない模様で、自分たちで開発するのではなく、外部技術を導入するやり方のように見うけられた。(田中)
- 貧困と環境は密接に関係するものとして、どちらも対策をしようとしているところが、APEXと同じ視点だと感じた。技術は外部任せの印象だったので、APEXからさらに技術的支援ができれば、活動はさらに発達するのかもしれないと思った。(ジェンキンソン)



CRDT 事務所訪問